



## 議会

鳥栖市議会は、定数22人の議員で構成され、市民の代表として皆さんの“声”を市政に反映させています。議会には3つの常任委員会を設け、条例や予算、請願などの審査や調査を行っています。また『市議会だより -とすきっぷ-』の発行やケーブルテレビとインターネットによる市議会の中継、議会報告会を開催して市民の皆さんとの意見交換を実施するなど、分かりやすく開かれた議会となるように心掛けています。



鳥栖市議会  
ホームページ



市議会だより  
とすきっぷ

鳥栖市章



昭和29年4月、市制施行にあたり全国からの公募で制定。「と」と「す」を組み合わせ、市民の団結と融和を表しています。

市の花



ハナショウブ

昭和59年4月、市民投票で制定。水辺に栽培される日本独自の園芸植物。色や形が豊富で、初夏に大型の花を咲かせます。

市の木



クロガネモチ

昭和48年4月、市民投票で制定。佐賀地方でモチノキと呼ばれており、雌木には秋から冬にかけて多数の赤い実がなります。

市の鳥



メジロ

平成6年5月、市民投票で制定。スズメより小さく、低い山地や平地の林などに生息し、昔から市民に親しまれています。

鳥栖市の  
情報発信



鳥栖市  
ホームページ



鳥栖市 市民  
ポータルサイト



LINE



X



facebook



Instagram



YouTube



## わたしが鳥栖を選んだ理由 暮らして感じる鳥栖の魅力



鳥栖市移住サイト

妻が二人目を妊娠し、最初は首都圏で住宅の購入を検討していましたが、この先も首都圏で生活を続けた場合、実家の両親に会える日数がわずかになると気が付きました。九州に戻ることを決め、博多やお互いの実家へのアクセスがいいことから鳥栖市を選びました。



普段は自宅でテレワークをしていて、仕事で東京へ行くこともありますが、博多駅までは電車で20~30分、博多駅から福岡空港も近いので、鳥栖市は東京にも行きやすいと思います。また、子育て世代が多く、近所に住む家族同士で交流があり、子どもが友達を作りやすい環境は親にも魅力的です。子ども連れにちょうどいい規模の飲食店が多いのもいいところだと思います。

末広拓夢さん・祥子さん

(拓夢さん：佐賀県出身/会社員)  
(祥子さん：佐賀県出身/主婦)

夫婦ともに佐賀県三養基郡出身で、就職を機に上京。10年ほど首都圏で暮らした後、2021年に鳥栖市へ移住。

東京都内のホテルに勤務していましたが、同じく都内に勤める福岡市出身の婚約者が、九州へのUターンを検討し始めたことから、移住を考えるようになりました。鳥栖市を選んだ一番の理由は立地の良さです。彼の職場がある佐賀市にも、実家のある福岡市にもアクセスしやすい点に魅力を感じて、鳥栖市に新居を持つことを決めました。

鳥栖市の魅力は、生活に必要なものがコンパクトにまとまっている点です。今のところ車を持たずに生活していますが、特に不便はありません。住宅街は静かで、身近に自然もありとても住みやすいです。鳥栖駅の近くにはスタジアムがあって、試合のある日はまち全体が活気に満ち溢れています。



中村多美子さん

(京都府出身/会社員)

京都府出身で、大学進学時に上京。その後、都内のホテルに勤務し、福岡市出身の婚約者との結婚を機に、2021年に鳥栖市へ移住。

結婚当初は鳥栖市、出産を機に佐賀市へ移った後、夫の出向に伴い6年間東京で暮らしました。出向期間を終えて佐賀県に戻る際、以前住んでいたときに感じた福岡へのアクセスのよさは、自身の仕事のしやすさだけでなく、子どもの進路を考えた上でも将来の選択肢を広げることにつながると思い、鳥栖市で家を持つと決意しました。



鳥栖市は外から入ってくる人が多いので、近所に子育て世代も多く、親も子どもも地域のコミュニティになじみやすいと感じています。福岡に比べて土地が安いのも魅力ですね。仕事面では、福岡と佐賀どちらの商圈でも活動できるので、両県のいいとこどりをしていると思います。

姉川智子さん・幸二さん

(智子さん：宮崎県出身/司法書士)  
(幸二さん：佐賀県出身/会社員)

結婚後、鳥栖市と佐賀市富士町で暮らした後、出向に伴い上京。6年間暮らし、佐賀県へ戻ることになった2023年に鳥栖市へUターン。